

客観性が高い、事業の優先順位付け手法

テーマ 優先順位付け

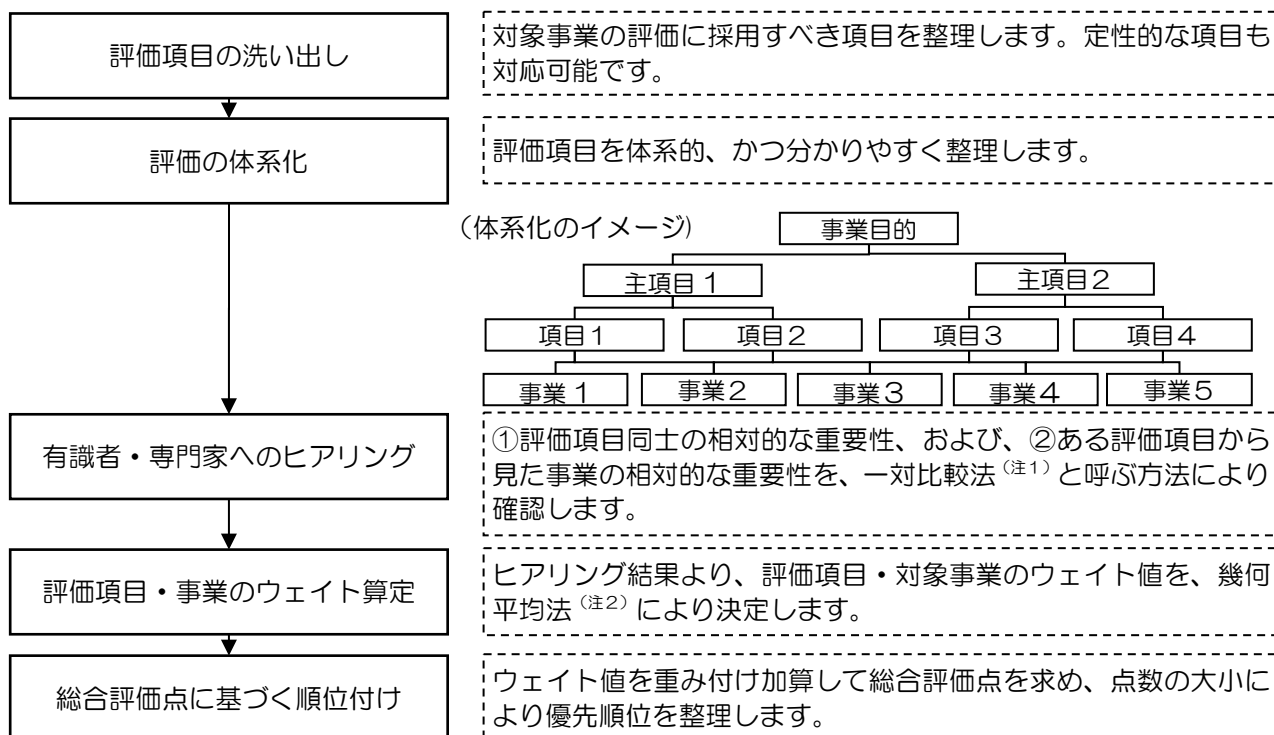
キーワード 階層分析法 (AHP)、包絡分析法 (DEA)

概要

- 高度成長期に集中的に整備された社会資本の老朽化が進み、計画的な改築・更新が必要です。
- 厳しい財政状況の中で、効果が高い事業を選別して、優先順位を明確にする必要があります。
- 市民の理解を得るためには、客観性が高い手続きを採用することが有用です。
- 推奨する手法には、次のものがあります。
 - 定量化が難しい便益の項目を、有識者・専門家の判断で定量化します ⇒ 階層分析法 (AHP)
 - 定量的であるが金銭化が難しいデータを評価項目として扱います ⇒ 包絡分析法 (DEA)

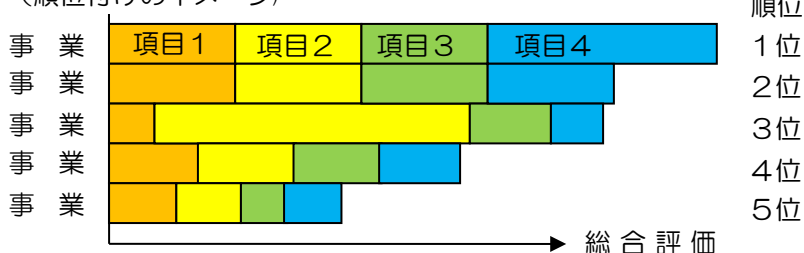
分析法① 階層分析法 (Analytic Hierarchy Process : AHP)

- 評価点の内訳から、事業の評価理由（優先順位を高くした要因）を確認することが容易です。



(注1) 一対比較法とは、2つの項目を比べて、一方が他方に比べて、どの程度重要であるかを確認する方法です。
(注2) 幾何平均法とは、 n 個のデータ $X_1, X_2, \dots, X_n$ の積の n 乗根 $(X_1 \cdot X_2 \cdot \dots \cdot X_n)^{1/n}$ を平均値とする方法です。

(順位付けのイメージ)



日本工営株式会社

お問合せ

内容に関するご質問は、以下のページからお問い合わせ下さい。

URL <http://www.n-koei.co.jp/contact/>

分析法② 包絡分析法（Data Envelopment Analysis：DEA）

- さまざまな評価項目を、事業の①アウトプット（事業効果）、②インプット（コスト）に区分して評価に取り込み、インプットあたりのアウトプットの大きさ（効率性）を分析します。
- 客観的な計算手法（線形計画法）により、評価点を算定します。重み付けのためのアンケート調査は不要です。

